

国語

◆各教科の調査結果（正答率：％）

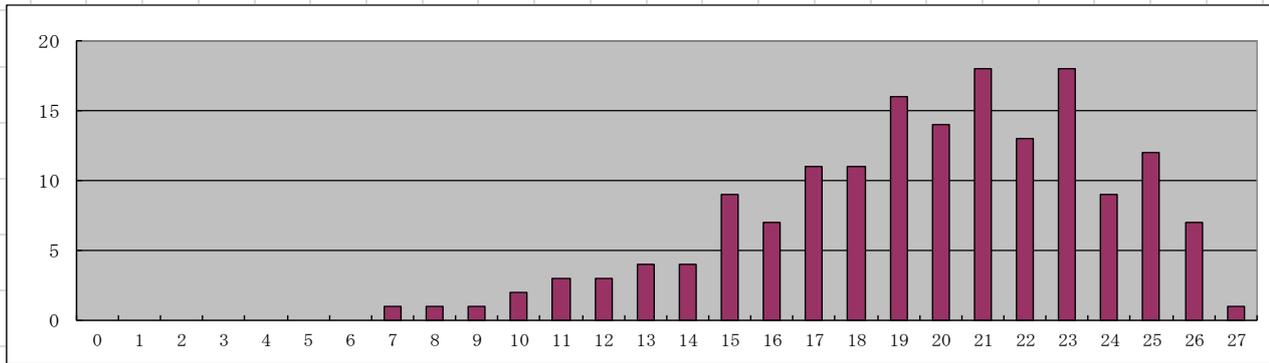
教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
国語	72.6	73.1	-0.5	73.5	72.4	+1.1	72.7	73.0	-0.3

◆観点別の調査結果（正答率：％）

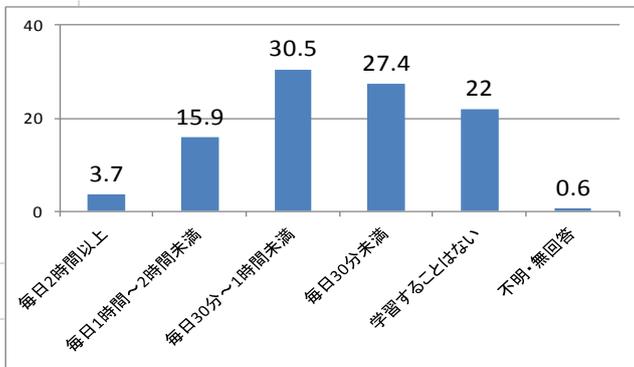
教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容													
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現 (国語：話す・聞く) (英語：外国語表現)			技能 (国語：書く) (英語：外国語理解)			知識・理解 (国語：言語)			読む			取り出す力			読み取る力			解決する力				
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都
国語	97.0	96.9	+0.1	66.3	69.9	-3.6	73.3	70.2	+3.1	75.9	77.0	-1.1	56.1	56.9	-0.8	68.3	69.7	-1.4	76.8	71.8	+5.0	80.5	78.4	+2.1		

都平均より0.2ポイント以上高い項目

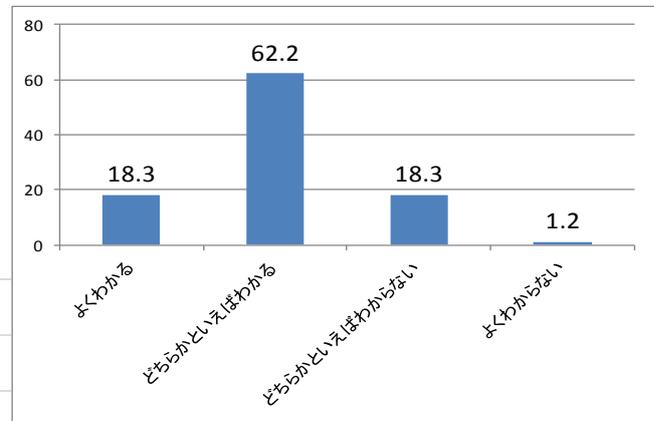
都平均より0.2ポイント以上低い項目



学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。(塾や習い事をふくめません。教科を問いません。単位：％)



国語の授業の内容はどのくらい分かりますか。(単位：％)



分析と考察

○東京都の平均を上回った項目は「関心・意欲・態度(+0.1ポイント)」「書く(+3.1ポイント)」「読み取る力(+5ポイント)」「解決する力(+2.1ポイント)」であった。授業では記述問題に取り組ませることが多く、他にもグラフなどから内容や結果を読み取り、自分の意見を書く取り組みも行っている。今回はその成果が表れたと思われる。

○東京都の平均を下回った項目は「話す・聞く(-3.6ポイント)」「言語(-1.1ポイント)」「読む(-0.8ポイント)」「取り出す力(-1.4ポイント)」であった。特に「話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができるか」については正答率が36パーセントと非常に低かった。グループ活動や話し合い活動を十分に行っていなかったことが原因と思われる。

改善策

○「話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができるか」について改善するためには「示されている情報」や「不足している情報」などを整理しながら聞くことの指導を継続的に行う必要がある。そのためには普段から話し合い活動や、意見交流を通して、情報を整理しながら他者とのコミュニケーション能力を高めていく必要がある。

○「言語」についても漢字・文法の小テストを行うことで、定期考査前だけの学習ではなく、普段から漢字や文法を学習する習慣を身に付けさせる。

○「読む」については登場人物の心情を読み取るのが苦手な生徒が多いため、授業で登場人物の心情を読み取る時間を増やし、生徒間で意見交流をして、心情の捉え方を共有して、自分の考えをまとめさせる。

社会

◆各教科の調査結果（正答率：％）

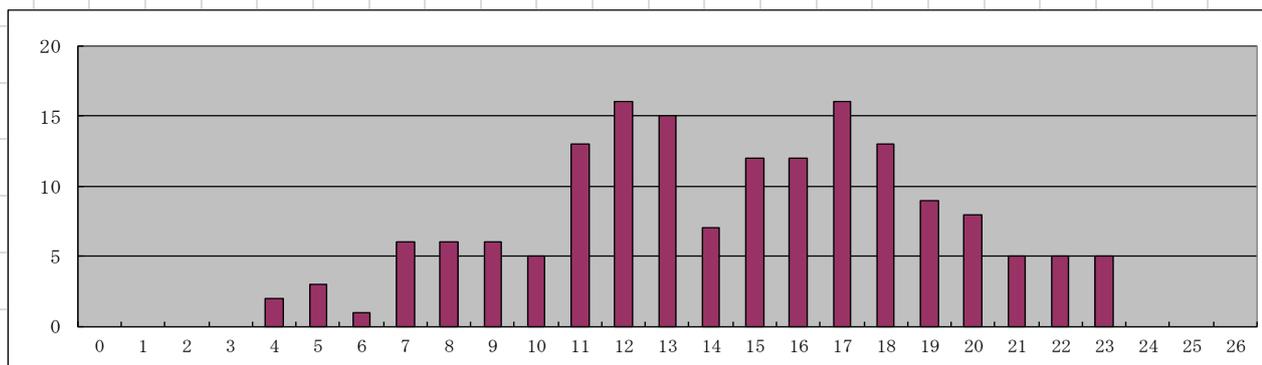
教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
社会	55.5	56.6	-1.1	55.8	54.9	+0.9	55.6	56.2	-0.6

◆観点別の調査結果（正答率：％）

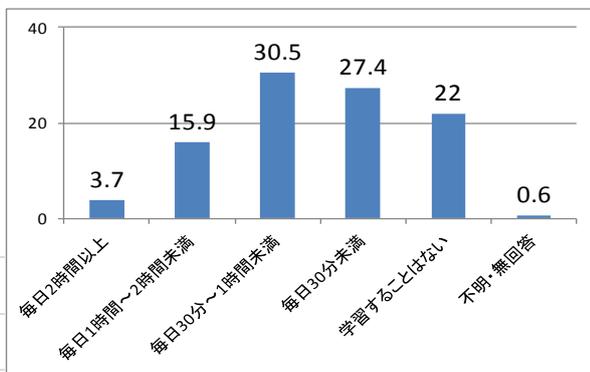
教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容													
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現 (国語：話す・聞く) (英語：外国語表現)			技能 (国語：書く) (英語：外国語理解)			知識・理解 (国語：言語)			読む			取り出す力			読み取る力			解決する力				
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都
社会	92.1	94.0	-1.9	46.1	44.3	+1.8	50.9	55.2	-4.3	58.7	58.3	+0.4			+0.0	64.9	64.6	+0.3	55.8	57.0	-1.2	46.6	43.3	+3.3		

都平均より0.2ポイント以上高い項目

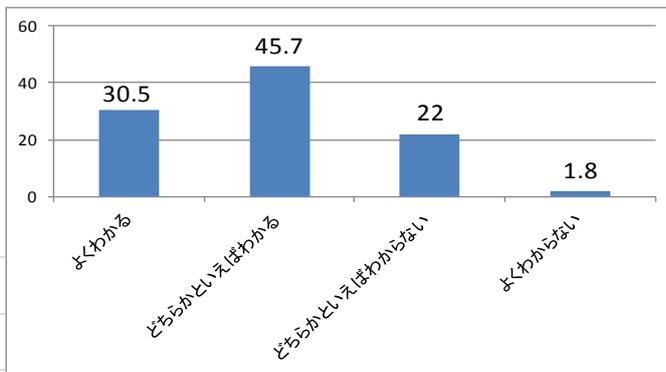
都平均より0.2ポイント以上低い項目



学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。(塾や習い事をふくめません。教科を問いません。単位：％)



社会の授業の内容はどのくらい分かりますか。(単位：％)



分析と考察

「A 教科の内容」は東京都の平均よりも1.1%下回っている。その中で思考・判断・表現に関する問題は1.8%上回っている。また、「B 読み解く力に関する問題」は0.9%上回っている。このことから、考えたり、判断したり、解決したりする力は比較的高いと言える。生徒質問紙調査において、「授業がわかる理由」として、「自分で考え、考えたことを発表する授業が多い」と答えている生徒が46%と割合が高いことから、授業の際に自分で考える機会を多くしていることが思考力の向上に結びついていると考えられる。

一方で、「A 教科の内容」の「技能」に関する問題が都の平均よりも4.3%下回っている。資料を活用することに課題があると言える。「知識・理解」については都の平均よりわずかではあるが上回っている(0.4%)ので、基本的な知識の定着は概ねできているようである。

改善策

- ・思考力については、今後も授業の中で自ら考え、判断し、発表する機会をつくり、さらなる向上を図りたい。その方法として、生徒が自ら考えやすい教材や発問を用意し、4人組のグループによる活動を積極的に活用する。
- ・資料活用に関する技能については、これまでもグラフや絵画資料の読み取りなどを授業の中で行ってきた。今後は地理的分野では地図やグラフ、歴史的分野では文献資料などもさらに積極的に活用し、ていねいに読み取る作業を取り入れる。
- ・知識・理解については、定期考査のほかに小テストを行うことで、日常から知識の定着を図る取り組みを行っていく。

数学

◆各教科の調査結果（正答率：％）

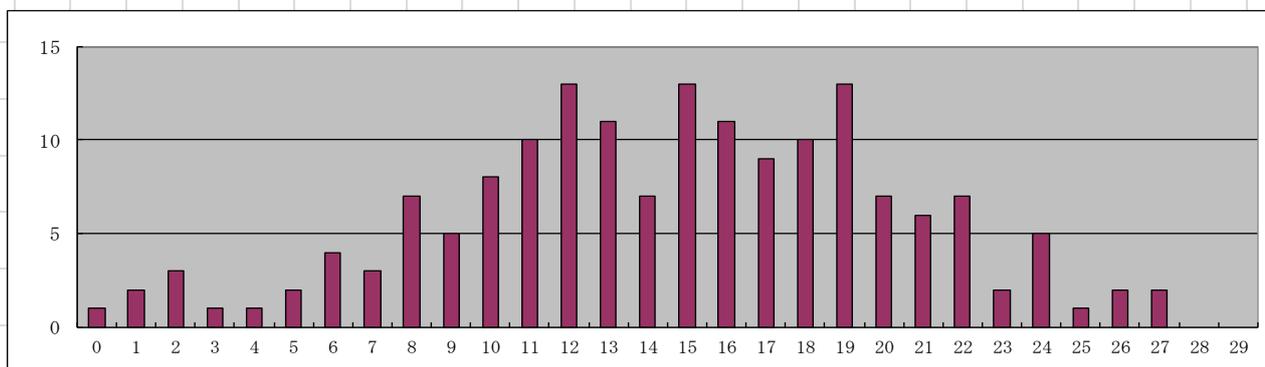
教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
数学	58.0	60.2	-2.2	29.9	35.3	-5.4	50.3	53.3	-3.0

◆観点別の調査結果（正答率：％）

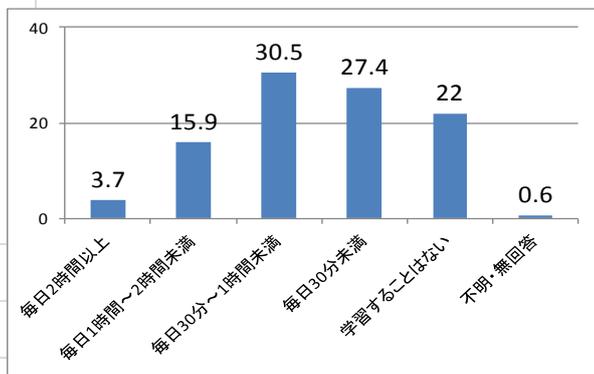
教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容													
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現 (国語：話す・聞く) (英語：外国語表現)			技能 (国語：書く) (英語：外国語理解)			知識・理解 (国語：言語)			読む			取り出す力			読み取る力			解決する力				
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都
数学	82.4	85.7	-3.3	42.4	48.1	-5.7	58.5	59.6	-1.1	60.6	61.3	-0.7			+0.0	39.0	29.3	+9.7	27.1	37.6	-10.5	20.6	36.8	-16.2		

都平均より0.2ポイント以上高い項目

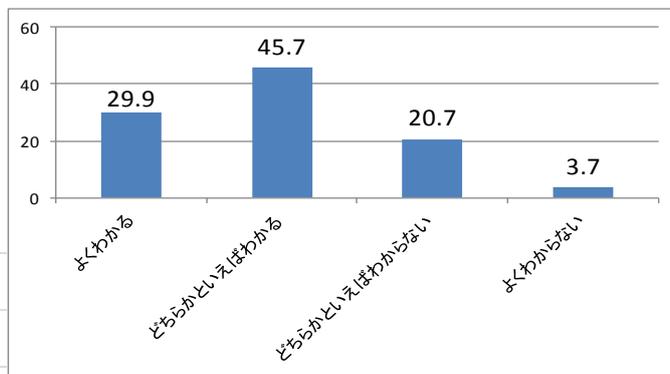
都平均より0.2ポイント以上低い項目



学校以外で、毎日おおよそどのくらい学習をしますか。(塾や習い事をふくめません。教科を問いません。単位：％)



数学の授業の内容はどのくらい分かりますか。



分析と考察

- ・ Aの教科の内容では、すべての項目において都の平均を下回っていた。また、基本的な計算の技能や知識が習熟できていない生徒が、各問の正答率の分析により3割近くいる。
- ・ Bの読み解く力に関する内容では、図や表などを見たりして、必要な情報を正確に取り出す問題の正答率が都の平均より高くなった。しかし、読み取る力や解決する力は都の平均をかなり下回った。
- ・ 意識調査の結果から、数学の授業について75.6%の生徒はよく分かる・どちらかといえば分かって答えている。

改善策

- ・ MMM検定（松江五中の計算技能検定）で合格点に達していない生徒に対して補充学習を行い、基本的な計算技能を習熟できるようにする。
- ・ 身近な題材を問題に取り入れた課題解決学習を各単元で行い、少人数のグループ活動を通して、積極的に言語活動ができるように支援する。
- ・ 学校以外で学習をしない生徒が少なくないので、お便りなどで状況を知らせ、学校以外でも学習するように呼びかける。

理科

◆各教科の調査結果（正答率：％）

教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
理科	57.9	57.2	+0.7	54.3	54.6	-0.3	57.1	56.6	+0.5

◆観点別の調査結果（正答率：％）

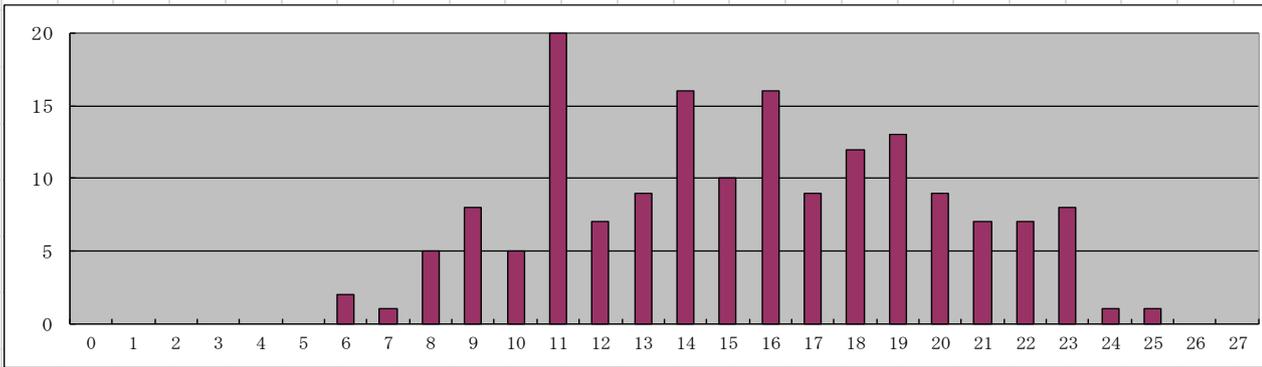
教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現 (国語：話す・聞く) (英語：外国語表現)			技能 (国語：書く) (英語：外国語理解)			知識・理解 (国語：言語)			読む			取り出す力		読み取る力		解決する力				
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
理科	90.6	89.0	+1.6	48.3	48.3	+0.0	79.1	74.6	+4.5	54.5	54.2	+0.3			+0.0	83.0	78.5	+4.5	29.4	31.6	-2.2	50.6	53.7	-3.1



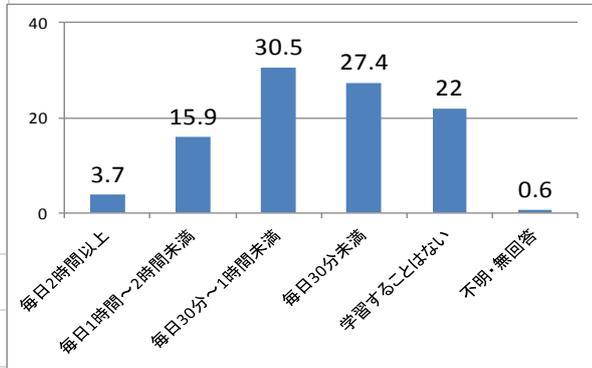
都平均より0.2ポイント以上高い項目



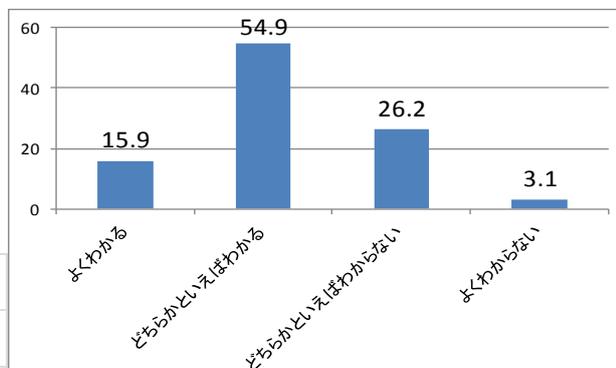
都平均より0.2ポイント以上低い項目



学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。(塾や習い事をふくめません。教科を問いません。単位：％)



理科の授業の内容はどのくらい分かりますか。



分析と考察

・教科の内容については、どの観点も都平均と同じか、多少上であったが、技能は+4.5ポイントと優れていた。特に第1分野では、ほぼ毎時間、班実験か演示実験に取り組んできたので、その成果と思われる。
 ・読み解く力に関する内容は、全体では都平均を多少下回る程度ではあるが、「取り出す力」が+4.5と優れているものの、「読み取る力」-2.2、「解決する力」-3.1となり、それを打ち消している。上記のように「ほぼ毎時間、班実験か演示実験に取り組んできた」ことは反映されたようである。しかし班で相談しながら「自分の考え」を書き、それを実験、観察にて確かめ、まとめるという授業の方法が、まだ成果にはまだ結びついていないことがはっきりした。

改善策

・「自分の考え」を書かせてから、その考えを発表させ、「討論をする」ことが「読み取る力」「解決する力」をつけることに繋がる、という考えをもとに授業を行っている。「討論」の時間を十分にとることが難しいが、できる限りその実現を目指している。
 ・第2分野では、小テストを通して、知識・理解と共に、「読み解く力」も目指す問題作成を考えている。

英語

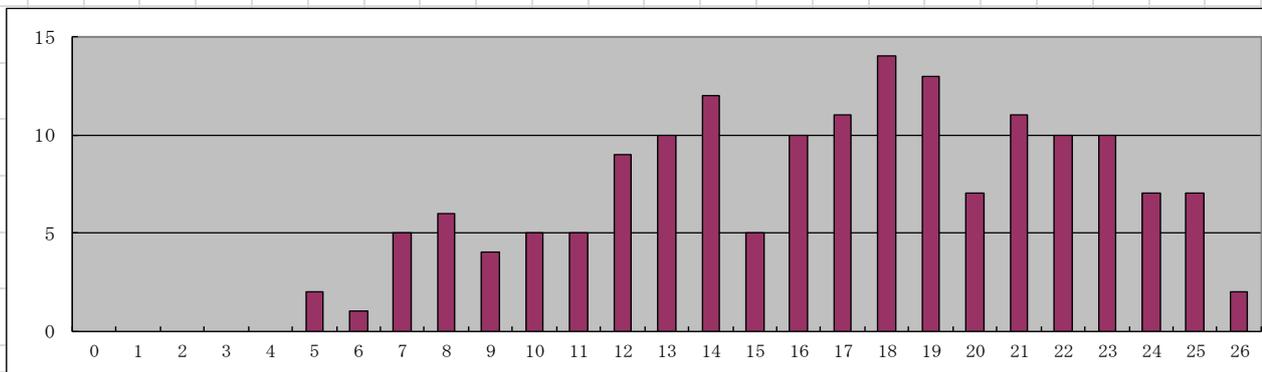
◆各教科の調査結果（正答率：％）

教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
英語	64.4	65.3	-0.9	64.1	63.7	+0.4	64.3	65.0	-0.7

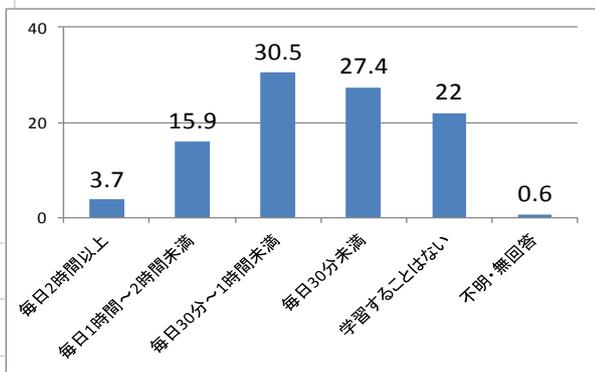
◆観点別の調査結果（正答率：％）

教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現 (国語：話す・聞く) (英語：外国語表現)			技能 (国語：書く) (英語：外国語理解)			知識・理解 (国語：言語)			読む			取り出す力		読み取る力		解決する力				
	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差	学年	東京都	差
英語	92.4	91.4	+1.0	45.9	49.1	-3.2	63.6	66.8	-3.2	68.4	65.5	+2.9			+0.0	63.9	63.5	+0.4	77.0	77.5	-0.5	51.5	50.0	+1.5

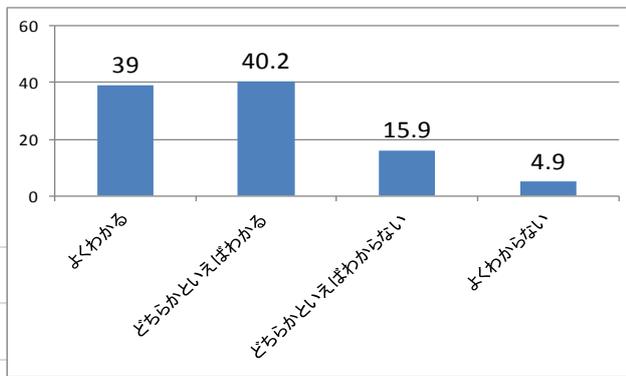
都平均より0.2ポイント以上高い項目
 都平均より0.2ポイント以上低い項目



学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。(塾や習い事をふくめません。教科を問いません。単位：％)



英語の授業の内容はどのくらい分かりますか。



分析と考察

- 「関心・意欲・態度」の項目は東京都の平均より約1ポイント上回った。
- 「外国語表現」の項目は東京都の平均を約3ポイント下回った。生徒の解答を見てみると、状況に応じて適切な英語を使用することができていない生徒が多いことがいえる。
- 「外国語理解」の項目は東京都平均を約3ポイント下回った。英語の文章を読み取る力が不十分であるといえる。
- 「知識」の項目は東京都平均を約3ポイント上回った。

改善策

- 「外国語理解」に関しては、主に読解の問題で、まとまった英文を読ませるときに概要を読み取らせるワークシートを用意し、設定時間を設けて自分で解かせる。接続詞や段落読みなど文章を読むときのポイントを解説する。
- 「外国語表現」に関しては、教科書で学習した表現を用いて自分のことを表現する機会を設ける。ペアワークなど簡単なスピーキング活動を継続して行い、既習事項を定着させる。